

下町ロケットの世界がここに！ 世界に誇る精密部品の町工場

川崎市にある従業員わずか5名の小さな工場内を覗くと精密機器が並ぶ。業界の人間なら一目でその設備投資が町工場のレベルでないことを理解でき、その技術力に驚く。工場に入りするのは日本有数メーカーの社員たち。難易度の高い半導体部品や内視鏡部品の加工図面を抱え、足早に駆け込む。まさに下町ロケットの世界がそこに広がっていた。



僅かな息で吹き飛びそうな微細加工品。原材料費が10万円の製品もあると聞き、急に身体が固まった。

『5軸加工』とは、これまでの3軸加工機よりも、さらに複雑な形状に対して切削を可能にするものです。



切削はスピード勝負の世界。夜10時にメーカーの社員が肉まんと栄養ドリンクを携えて、助けを求めにくることもあるそう。まさに駆け込み寺だ！



代表取締役社長
野田 宜志

メーカーが深夜に駆け込む
難加工のプロフェッショナル

角 小さな町工場から日本産業をリードする微細加工の工場と伺いました。

野田 皆さん、当社のことを「加工の駆け込み寺」や「下町ロケット」と呼んでくれます（笑）。実際、当社はわずか従業員5名の規模ながら、3次元加工や5軸加工、マイクロ単位の精緻な切削加工も行うことができ、国内有数の半導体や内視鏡メーカーが難形状、難削材の相談に駆けこんできます。

角 野田さんは2代目にあたるんですね。

野田 はい。私はもともと証券会社に勤めており、大きな仕事もさせてもらいましたが、お金持ちを太らせている仕事だと嫌になり、自分の力で稼ごうと、2001年に経営難の事業に参加しました。角 どのようにして成長させたのですか。

野田 まず他社ができないことをしなければ意味がないと考えました。重要視したのは3つの分野への設備投資です。まずは設計。入社時にコンピューターによる設計製造を行うCAD/CAMソフトウェアを導入しました。次に精度の高い加工機。そして検証するための高性能検査機を揃えました。実は、多くの中小企業が、自社製品の検証ができず技術を証明できないのです。

角 資金はどのようにしたのですか。

野田 利益を生む努力をし、すべてを設備投資にまわしました。そのため、工場は貸家ですが、ここには総額数億円に達

する機器が並んでいます。技術漏洩を避けるため、身内のみを雇い、見栄よりも実をとりました。見栄の部分は証券会社時代に十分経験しましたから（笑）。角 ここには機器だけでなく、ドラマも詰まっていますね。

Column

入社以来、ゼロから独学で学び、常に現場のトップに立ちながら、他社が太刀打ちできないような技術を磨き続けた野田さん。経営難の状態から、不屈の精神で努力し、なし得たことは、続く日本の中小企業経営に大きな勇気を与える。野田さんが次に目指すのは日本に数社しかないこの技術でもって、世界の産業発展に寄与することである。

Corner Point

取材：角 盈男

日本を代表する高機能車のシリンダーヘッドにも同社の削りだし技術が使われている。野田さんは、利益をすべて設備投資にまわし節約を続けていたが、最近、長年築き上げた加工技術が認められたその車を購入したそう。人生のご褒美ですね。



有限会社日成工業 (Nissei Industry Co., Ltd.)
神奈川県川崎市中原区宮内2-24-1
TEL.044-797-2223
<http://nissei-kogyo.world.coocan.jp>